

令和 7 年度(第 21 回)若手農林水産研究者表彰 受賞者の業績概要

【農林水産技術会議会長賞】

受賞者	業 績 名	所 属
いしやま よしゆき 石山 佳幸 38 歳	レタスに発生する土壌病害診断法の開発 と防除に関する研究	長野県 野菜花き 試験場佐久支場
長野県内のレタス産地に発生した生育不良が国内初確認となるレタス コルキールート病及び黒根病によることを明らかにし、それぞれの病気に有効 な防除対策を確立した。また、レタス根腐病を加えた 3 つの土壌病害の診断 が可能なフローチャートによる簡易判別法を開発し、現場で適切な防除手段 を選択できるよう活用が図られている。		
いとう みずほ 伊藤 瑞穂 39 歳	物質生産に基づくトマトの栽培支援技術 の拡充と社会実装	国立研究開発法人 農業・食品産業技 術総合研究機構 野菜花き研究部門
施設トマトの物質生産（群落光合成による糖の生産）に基づく、統一的な 解析結果を蓄積し、栽培環境と生育を紐づけたデータ活用が可能な栽培支援 技術として整備した。技術によって、生産の可視化や評価、生育シミュレー ションが可能になり、現地や遠隔でのデータに基づく栽培支援によって、収 量や生産効率の向上を達成した。		
いなば ひろゆき 稲葉 博之 36 歳	ウナギの雌化と食味に優れた大型雌ウナ ギ生産技術の確立	愛知県 水産試験 場漁業生産研究所
大半が雄に育つウナギ養殖において、大豆イソフラボンを用いた雌化技術 の開発とその雌化メカニズムを解明し、産学官連携により飼料の製品化に成 功した。さらに、大型雌ウナギの脂ののりや身の柔らかさ等の品質優位性を 科学的に証明し、資源の有効利用と生産物の高付加価値化に寄与する画期的 な技術として、全国規模での展開を実現した。		

受賞者	業 績 名	所 属
えんどう 遠藤 みのり 38 歳	新品種開発と流通技術開発によるイチゴの流通ロス削減	国立大学法人 岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域
国内流通や輸出での流通ロス削減のため、損傷が生じにくいイチゴの育種手法として新たな選抜指標を考案し、新品種を育成した。また、海上輸送を可能とする包装、航空機と船舶を併用する新たな輸送方法を開発した。これらの成果は単独で機能するだけでなく、併用により一層効率的かつ高度に運用可能である。特に育成品種「恋みのり」や海上輸送向け包装技術は、国内流通・輸出において活用が進んでいる。		
おかがわ 岡川 ともひろ 37 歳	牛伝染性リンパ腫に対する治療法および発症診断法の開発	国立大学法人 北海道大学 大学院獣医学研究院 株式会社ファスマック 事業開発部
農場における牛伝染性リンパ腫（EBL）の清浄化の実現を目指し、牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）感染牛に対する治療法として免疫チェックポイント阻害抗体を開発して、免疫活性化効果と抗ウイルス効果を実証した。さらに、BLV 感染細胞のクローナリティ解析法を開発し、高精度な EBL 診断・発症予測を実現した。これらの成果により診断と治療の両面から包括的な疾病対策が可能となり、EBL の清浄化により経済損失の軽減に寄与する。		
かんべ 神戸 ゆうすけ 39 歳	シルク材料の生分解性の解明・向上と高付加価値分野への応用	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門
シルク材料の高付加価値応用（特に、医療応用）のため、シルク材料の体内での生分解メカニズムを解明し、これを基に、成形加工過程での分子量制御によるシルク材料の生分解性向上の手法を開発した。そして、得られた高生分解性シルク材料が医療機器「癒着防止吸収性バリア」としての機能を有することを見出した。また、由来の異なるシルクの新規成形加工技術を開発し、スポーツやライフサイエンス分野への応用可能性を示した。		